

業績のご報告

当期の日本経済は、高水準で推移する失業率、企業リストラなどにより依然として個人消費が目立った改善を見せていないものの、政府の一連の経済対策などが功を奏し、企業収益では徐々に改善の兆しが出て、景気回復の期待感も高まってまいりました。

こうした事業環境のなか、セコムグループでは、当期もその使命として掲げている「社会システム産業」を実現すべく、営業活動の強化、サービスの充実、新システム・新商品の開発、さらに積極的な新規事業展開にグループ一丸となって、フルスピードで取り組んでまいりました。その結果、業績面で着実な成果を上げることができました。

当期の連結売上高およびその他の収入合計は前期比4.6%増の4,124億円、当期純利益は前期と比べ投資有価証券売却益が減少したため、前期比5.0%減の474億円となりました。

売上高およびその他の収入の内訳は、契約関係収入が2,707億円、商品、ソフトウェア、メディカルサービスおよび不動産売上高が975億円、保険サービス収入が300億円、投資有価証券売却益(純額)が55億円、受取利息およびその他収入が88億円となっています。

1株当たり当期純利益は前期の214.51円から203.67円となりました。また、2000年6月29日の株主総会では1株当たり配当金を40円にすることが決議されました。

革新的な事業展開

セコムグループでは、「豊かな社会とは選択肢の多い社会である」と考えています。

この選択肢を増やすため、グループ企業間のシナジー効果を生かし、社会にとって安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造することが我々に与えられた使命と認識しております。その結果、お客様から「困ったときにはセコムに頼めばいい」「セコムのシステムがあると安心で便利だ」と言っていただけるような企業グループをめざしています。

現在この新しい社会の基盤づくりに重要な役割を担っているのが、セキュリティ、情報系、メディカル、教育、損害保険、地理情報サービスの各分野で、最近では以下のような事業活動を新たに展開しております。

セキュリティ事業では、インタラクティブな画像監視システム「セコムIX」をコン

ビニエンスストアなど深夜営業店舗向けに開発しました。また、機器そのものにセキュリティ機能を付加させて妨害行為を感知し、信頼性をより高めた監視カメラ・システム「スーパーCCTVシステム」を発売し、いざという時の防犯バックアップ体制で各種店舗経営の不安に対応しております。

このほか、長年培ってきたホームセキュリティのノウハウを結集したマンション管理システム「セコムMS-2」を発売し、高齢者向けマンションを対象に救急通報とライフ監視機能を付加し、より快適な生活を支援しています。



取締役最高顧問・創業者 飯田 亮

また、機械式立体駐車場向けに、オゾン破壊係数がゼロの新ガス消火剤を採用した、人にも環境にもやさしい自動消火システム「トマホークPS」を発売しました。

情報系事業では、インターネット社会でのさまざまな犯罪から情報資産やビジネスを保護するために、従来のVANサービスに加えてサイバーセキュリティの機能をセコムトラストネット(株)に統合いたしました。この結果、ネットワークの内外からの脅威に24時間年中無休で監視し、高度電子認証技術を用いてお客様のe-ビジネス展開を支援できるサービス体制を新たに構築いたしました。

有人監視サービスでは、ネットワークへの不正侵入に対する監視・報告を行う「セコム不正侵入検知サービス」やウイルスのリスクから守る「セコムウイルス監視サービス」を24時間365日体制で提供しています。

電子認証サービスでは、「セコムパスポート for Web」や「セコムパスポート for Member」サービスを開始し、それぞれWebサーバー上でホームページを運営する企業の信頼性を証明したり、会員組織単位にブラウザおよび電子メール用証明書を発行しています。

メディカル事業では、セコム在宅医療システム(株)が医療保険・介護保険適用の「訪問看護ステーション」を、新宿をはじめ4カ所に開設しました。これにより、クオリティの高い訪問看護

サービスをより利用しやすいサービスとして提供できるようになりました。

教育の分野では、既存の学校内ネットワークとインターネットを通じて、セコムラインズ(株)が「学校用ソフトウェア」を用意し、コンピュータ教育の普及を支援しています。

損害保険事業では、セコム損害保険(株)が、当社のセキュリティサービス契約と連動した「火災保険(セキュリティ割引)」や直販型自動車保険「セコム安心マイカー保険」など、オリジナル商品を発売しました。また、積立普通傷害保険「あんしんLリッチ」と満期戻総合保険「あんしんニューダブル」では高い予定利率を実現し、ご契約先からご好評をいただいております。

地理情報サービスの分野では、新たにセコムグループ入りした(株)パスコが、測量

調査とGISの両分野で業界最大手の実績・信頼をもとに、豊かな社会の実現をめざしサービス向上を図っています。

そのほか、マンションデベロッパーであるセコムホームライフ(株)では、オンライン・セキュリティシステムを標準装備し、安全・安心を重視した快適な住環境を供給しております。



代表取締役社長 杉町 壽孝

株主価値の向上をめざして

セコムでは株主や投資家への利益還元を第一に考えて経営を行っており、同時に情報も積極的に開示してまいりました。

このたび、当社は自社株式の流通と投資家層の拡大を図るため、1999年11月に1株を2株にする株式分割を行い、2000年8月には単位株式数並びに株式の取引単位を1,000株から500株に変更いたしました。

今日、社会の情報化、高度化の進展、人々の価値観の変化および多様化などから、安全、情報、メディカル、教育、損害保険、地理情報サービスの各分野に対する多様なニーズはますます高まっております。こうしたニーズにいち早く対応すべく、セコムグループでは「社会システム産業」の構築をフルスピードでめざし、企業活動や家庭生活のなかで求められれば、新たな事業分野への進出、最新のシステムを立ち上げ、さらに既存のサービスシステムへの融合・複合化をグループ一丸となって果たすことが、当社の使命であると考えております。

常に時代を先取りする全く新しいシステムを創造してきたセコムグループですが、お客様から「困ったときにはセコムに頼めばいい」「セコムのシステムがあると安心で便利だ」という声をどれだけ多くいただけるかが重要と考えております。

これからも当グループでは、株主価値向上を経営の遂行と連動させながら「社会システム産業」の完成という目標に向かって邁進していきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2000年8月31日



取締役最高顧問・創業者

飯田 亮



代表取締役社長

杉町 壽孝